オーサーシップ

科学論文に著者名を明記することにより、適切な個人が著者として認められ、研究の責任を負うことになります。科学者と論文の関係を意図的に偽ることは、論文の内容そのものの信用を傷つける不正行為と見なされます[1]。

オーサーシップの普遍的な定義はありませんが1、一般に「著者」とは、研究に多大な知的貢献をした個人と考えられます[2]。

国際医学雑誌編集者委員会（ICMJE）が定めたオーサーシップに関するガイドラインには、「著者と指定された者はすべて著者としての資格を有し、著者としての資格を有する者はすべて列記すべきである」と記載されています[2]

個人が著者として認められるには、以下の3つの基準を全て満たす必要があります[2]。

- 研究の着想と企画、データの取得、分析、解釈に実質的な貢献をしている。
- 論文の知的内容を執筆または改訂している。
- 最終版を承認している。

以下に一般的なガイドラインを紹介します。（研究分野によって異なる場合があります。）

- 著者の順序は「共著者の共同決定」とする[2]。
- 研究に関与したが、ジャーナルの著者基準を満たさない者は、「Contributors（貢献者）」または「Acknowledged Individuals（定評のある人々）」として列記する。これには、助言によって研究を助けた人、研究場所を提供した 人、学部の監督者、経済的支援を獲得した人などが含まれる[2,3]。
- 複数の拠点にわたる大規模な治験の場合は、一般に医師とセンターのリストを公開し、各貢献についての説明を添える。グループによっては、著者をアルファベット順に列記し、すべての著者が研究と発表に均等に貢献したという説明を添える場合もある[1,2]

以下の3種類の著者は許容されません。

- ゴーストオーサー：論文発表に相当の貢献をしているが、研究自体に対する貢献としては評価されない（一般的にスポンサーから　報酬を得ている）。
- ゲストオーサー：明確な貢献はないが、論文出版の可能性を高めるために列記される。
- ギフトオーサーシップ：研究との希薄な関係にのみ基づく[1,3,4]。

オーサーシップの問題を適切に対応しないと、争議につながる場合があります。争議の中には、不正行為（だれかの役割を偽るなど）に起因するもののほか、「相当の」貢献をしたと考えられる程度やオーサーシップが正当かどうかなど、解釈に関する疑問に起因するものがあります[1]。

そのほか、研究に関与したのに著者や貢献者として列記されていない、だれかが自分のアイデアを取って論文を発表したのだから自分に完全なオーサーシップがある、自分の許可なく自分の名前が論文に記載されている、などの問題もあります。

問題について申し立てがあった場合は、調査が行われ、ジャーナル編集者と著者の所属機関が最終決定を下します。

曖昧性や誤解を防ぐため、研究を始める前にミーティングを開き、各自の役割がどのように認められるかを文書化しておくことを強くお勧めします[1]。

オーサーシップに関する問題は、複雑であり、かつ慎重に扱うべきです。そのような状況に直面した若手研究者が、自らの発言によって自身の定評とキャリアに傷が付くことを恐れる場合もあります1。各ジャーナルのオーサーシップに関するガイドラインと業界の条件を時間をかけて十分に理解してください。問題をどのように処理するべきか難しい状況に陥った場合は、信頼できるメンターか指導教官に相談してください。

裏面に続く

オーサーシップに関する論争とその防止方法*

行為	内容	非倫理的?	取るべき行動
科学者と論文の関係の偽装	研究にほとんど、またはまったく貢献しなかった人の名前を挙げる、貢献した人の名前を挙げない[1]、または「実際よりも高いレベルまたは貢献度を示す順序で著者名を並べている」こと[3]。 これには、著者／貢献者の許可を得ずに原稿を提出することも含まれます[1]。	**はい**。 ICMJEには以下のように書かれています。「著者と指定された者はすべて著者としての資格を有し、著者としての資格を有する者はすべて列記すべきである」[1]。 不正表示には「ゴースト」、「ゲスト」オーサーの表示も含まれます[2]。	■論文を投稿する前にジャーナルの投稿規定を見直す。ジャーナル編集者はすべての貢献者を正直に表示するよう著者に要求する。 ■これには「相当な貢献をした」貢献者、プロのライター、そのほか研究に貢献した全員が含まれる。 ■論争を防ぐため、だれが何をし、オーサーシップをどのように扱うかについて最初に明確に定める。 ■オーサーシップに関して自分が不当に扱われていると感じた場合は、信頼できるアドバイザーに相談する。
ゴーストオーサーシップ	通常、著者や貢献者として表示されないプロのライター（スポンサーから報酬を得ることが多い）を指します。 出所不明のデータ分析への貢献もゴーストオーサーシップと見なされる場合があります[3]。	**はい**。 プロのライターの貢献を明示しないことは不正行為と見なされます。	■原稿の執筆のみに参加し、研究の企画、実施あるいは結果の解釈に貢献しなかったプロのライターは、謝辞のセクションに明記する必要がある。その際、執筆に対して報酬を受け取ったかどうか、受け取った場合にはどこから受け取ったかなど、潜在的な利益相反についての情報も付記する[3]。 ■オーサーシップに関する各ジャーナルのガイドラインを参照する。 ■その他のリソースを参考にする：ICMJE[2]、世界医学雑誌編集者協会（WAME）[4]、欧州メディカルライター協会（EMWA）5、米国メディカルライター協会（AMWA）[6,3]。
ギフト／ゲストオーサーシップ	研究とは希薄な関係のオーサーシップ、または特定の名前を入れることで論文が出版される可能性が高まるという予想にのみ基づくオーサーシップ。	**はい**。 ゲスト／ギフトオーサーは目に見える貢献をしていません[3]。	■ゲスト／ギフトオーサーによる貢献がある場合は、論文投稿前に吟味する。 ■貢献が許容されるかどうかに疑問がある場合は、各ジャーナルのオーサーシップガイドラインを参照し、編集者に相談する。

*疑問がある場合は、常に教授、アドバイザー、または正しい行為を指導する権限を持つ人物に相談してください。

参考文献

1. 出版倫理委員会（COPE）. オーサーシップに関する問題の取り扱いについて：新しい研究者のためのガイド. 2003年, ダウンロード： http://publicationethics.org/files/2003pdf12.pdf. アクセス日：2012年9月12日
2. 国際医学雑誌編集者委員会（ICMJE）. 生物医学系ジャーナルに提出する原稿に対する一律の要件：研究の実施と報告における倫理的注意事項：著者と貢献者　ウェブサイト：http://www.icmje.org/ethical_1authoer.html アクセス日：2102年9月12日
3. Scott-Lichter D and the Editorial Policy Committee, Council of Science Editors. CSE's White Paper on Promoting Integrity in Scientific Journal Publications, 2012 Update. 3rd Revised Edition. WheatRidge, CO: 2012. ダウンロード: http://www.councilscienceeditors.org/files/public/entire_whitepaper.pdf. アクセス日：2012年9月14日
4. 営利企業が紹介したゴーストライターに関する世界医学雑誌編集者協会（WAME）の方針表明. ウェブサイト：http://www.wame.org/wamestmt.htm - ghost. アクセス日：2012年9月14日
5. Jacobs A, Wager E. 査読出版論文の作成におけるメディカルライターの役割に関する欧州メディカルライター協会（EMWA）のガイドライン。Curr Med Res Opin. 2005;21:317-321. ダウンロード：http://www.emwa.org/Mum/EMWAguidelines.pdf. アクセス日：2012年9月14日
6. 米国メディカルライター協会（AMWA）. 科学出版論文に対するメディカルライターの貢献に関する立場表明. ウェブサイト：http://www.amwa.org/default.asp?Mode=DirectoryDispl ay&id=308. アクセス日：2012年9月14日

利益相反

科学研究と査読プロセスには、透明性と客観性が不可欠です。

研究責任者、著者、編集者、査読者が、自身の客観性を損なう、あるいは自身の行動に不適切な影響を与える経済的／個人的な利益や信念を持っている場合、潜在的な利益相反が存在します。このような関係は二重コミットメント、利益の競合、競合する忠誠とも呼ばれます[1,2]。

最も顕著な利益相反は、以下のような経済的関係です。
- 直接的：雇用、株式所有、助成金、特許。
- 間接的：謝礼金、スポンサー企業に対するコンサルタント業、投資信託での所有権、有料での専門家証言[2]。

無申告の経済的利益相反は、ジャーナル、著者、科学そのものの信頼性を著しく損なう場合があります[2]。例えば、研究責任者が、研究を委託する側の製薬会社の株式を所有している場合です。

人間関係、学術的な競争、知的情熱なども利益相反の原因となる場合があります[2]。例えば、以下のような場合です。
- 研究者が評価しようとする製品のメーカーで、その研究者の親戚が働いている。
- 研究結果に私的な利害関係（成果に基づいた昇進／キャリア前進の可能性など）がある。
- 研究しているトピックと個人的な信念との間に直接的な相反がある。

すべての関係が本当の利益相反になるわけではありません。相反は潜在的な場合もあれば現実的な場合もあります[1,2]。例えば、こんな場合を考慮してください。個人と組織の関係は、その個人による偏りのない研究や執筆に僅かでも影響を及ぼす可能性がありますか[1]？もしくは、その個人と組織の関係が後で明らかになった場合、一般的な読者がだまされた、あるいは自分の理解は誤って導かれたと感じさせるでしょうか[3]？

利益相反となる可能性のある関係は、たとえ本人が自身の判断に影響を与えないと考えている場合でも、所属機関の倫理担当部署および投稿するジャーナルの編集者に完全に開示する必要があります。すべての出版社は、原稿のカバーレターおよび（または）脚注の形で開示を要求します。

ジャーナルは、開示された情報に基づいて編集上の決定を行い、読者が原稿を評価する上で重要と考えられる場合には、その情報を発表することがあります。公表された利益相反の内容に基づき、発表しない場合もあります。

米国研究公正局によれば、利益相反を持つこと自体は非倫理的ではなく、不可避な利益相反もあります[1]。完全な透明性を目指すことが常に最善の行動であり、迷ったら開示することです。

利益相反に関する指針と防止方法*

行為	内容	非倫理的？	取るべき行動
利益相反となる可能性のある未公開の関係	自身の客観性を損なう、または自身の行動に不適切な影響を与える可能性のある人物や組織との関係の開示を怠ること。	はい。 必ずしも利益相反とならない関係もあります。査読／出版プロセスに関与する者は、利益相反と見なされかねない潜在的な関係について開示しなければなりません[2]。	■論文を投稿する際、潜在的な利益相反が存在するかしないかを明示する。 ■原稿の利益相反通知ページにそれを記載し、必要に応じて原稿のカバーレターで詳細を述べる。 ■研究責任者は、研究参加者の潜在的な利益相反を開示し、その旨を原稿に明記する。 ■査読者も原稿に対する意見を偏らせかねない利益相反を開示する[2]。
未開示の資金源とその役割	研究スポンサーがいる場合、研究のデザイン、データの収集、分析、解釈、報告書の記述、論文投稿の決定などにおける、その役割を開示しないこと。	はい。 研究者は、すべてのデータにアクセスし、独立してそのデータを分析するとともに、論文を執筆、出版する能力を妨げる合意を研究スポンサーと結んではなりません。 資金を提供された場合は、すべての資金源を公表する必要があります[2]。	■論文を投稿する際、本文の独立したセクションとして（「資金源の役割」の見出しで）公表し、参考文献の前に配置する。 ■研究スポンサーがいる場合は、研究のデザイン、データの収集、分析、解釈、報告書の記述、論文投稿の決定などにおけるその役割を開示する。 ■編集者は、研究の結果に所有権または経済的利害関係を持つ機関が資金を提供している論文の著者に対し、「本研究におけるすべてのデータへのアクセスを持ち、データの完全性およびデータ分析の精度に全面的な責任を持つ」などの宣言に署名させる場合がある[2]。

*疑問がある場合は、常に教授、アドバイザー、または正しい行為を指導する権限を持つ人物に相談してください。

参考文献

1. 米国研究公正局、米国保健福祉省. 利益相反の概要. ウェブサイト：http://ori.hhs.gov/plagiarism-35. アクセス日：2012年9月3日
2. 国際医学雑誌編集者委員会（I CMJE）。生物医学系ジャーナルに提出する原稿に対する一律の要件：研究の実施と報告における倫理的注意事項：利益相反. ウェブサイト：http://www.icmje.org/ethical_4conflicts.html アクセス日：2012年9月2日
3. 出版倫理委員会（COPE）. 適正な出版手続きに関するガイドライン（Guidelines on Good Publication Practice）. 1999, 年. ダウンロード：http://publicationethics.org/static/1999/1999pdf13.pdf　アクセス日：2012年9月6日

剽窃

論文発表における最も一般的な不正行為は剽窃、すなわち著者が他人の論文を許可、クレジット、承認なしに意図的に利用するものです。剽窃には、言葉通り複製することから、他人の論文の言い換えまでさまざまな形態があり、以下のものが対象として含まれます。

- データ
- 言葉やフレーズ
- アイデアや概念

剽窃の程度も多岐にわたります。
- 他人の論文をどれだけ利用しているか。数行、数段落、それとも全部?
- 何を複製したのか。結果、方法、序文?

論文においては、常に引用情報を明記することを忘れないでください(アドバイザーや自身の過去の論文も含む)。自分の研究を常にその研究分野という背景の中に位置づけ、自分の研究の土台となった成果を認めることが重要です。

剽窃に関する指針と防止方法*

行為	内容	非倫理的?	取るべき行動
言葉どおりの複写	原典の許可や承認なく、全体または一部を一言一句複写すること。	はい。 言葉どおりの複写は、出典を明記し、複写した文章を引用符号でくくった場合にのみ許容されます。	■使用する文献、および自分の論文内でそれを使用する箇所については、研究中から常に記録しておく。 ■論文の中で引用であることを十分に示し、原典を適切に引用する。 ■適切に引用情報を記載した場合でも、引用符号でくくる場合を除き、他人の論文をそのままの言葉どおりに使用することは避ける。
大幅な複写	これには、研究の材料、プロセス、表、装置などが含まれます。	はい。 「大幅な」とは、複写の質と量の両方を意味します。自分の論文が他人の論文の本質的な点を利用する場合は、引用情報を記載する必要があります	■自分の論文が元の著者のスキルや判断を利用していないか自問する。 ■その答えが「はい」である程度によって、大幅な複写であるかどうかがわかる。 ■大幅な複写である場合は、必ず原典を引用する。
言い換え	言葉どおりの複写ではなくても、原典の許可や承認なしに、他人のアイデアを再現することを意味します。	はい。 言い換えは、出典を挙げ、原典の意図を変えない場合のみ許可されます。	■原著者の意図を確実に理解する。 ■完全に理解していない言葉はコピー&ペーストをしない。 ■原典の基本的なアイデアが自身の論文にどのように関連しているか、引用せずに情報を他人に提供できるかどうかを考える。 ■言い換えと原典を比較し、言葉を変えても意味を保持していることを確認する。
テキストの再利用	自身の論文の一部を複写し、まったく新しい論文として再投稿すること。	はい。 二重投稿に関するファクトシートを参照してください。	■自分の言葉を再利用する場合でも、過去の発表論文から直接引用した箇所はすべて引用符で囲む。 ■適切に出典を明記する。

*疑問がある場合は、常に教授、アドバイザー、または正しい行為を指導する権限を持つ人物に相談してください。

参考文献
1. 出版倫理委員会による適正な出版手続きに関するガイドライン. 出版倫理委員会(COPE). 1999年, アクセス日:2012年6月15日
2. エルゼビア. 出版倫理リソース・キット(PERK). ウェブサイト:http://www.elsevier.com/wps/find/editorshome.editors/Introduction アクセス日:2012年6月11日

研究捏造

研究捏造とは、実験や観察に基づいたものではなく、でっち上げやデータ操作によって作られたデータや結論を基に論文発表を行うことです。研究および科学論文の出版においては、以下の2種類があります。

偽造
研究データや結果を細工し、記録または報告すること[1]。

改ざん
研究資料、画像、データ、装置、プロセスを操作すること。データや結果の変更や意図的な省略により、研究を正しく表現しないことも改ざんに相当します[1]。データの改ざんによって望ましい研究結果を導く場合もあります。

偽造も改ざんも、観察された真実を正確に反映していない科学的記録を生むという点で重大な不正行為です[2]。

簡単に発見できる捏造もあります。例えば、発表論文に書かれている研究を行う設備がその研究所に存在しない場合などです。ゲル画像が明らかに操作されている場合、ゲルが他の実験で使われているのレーンとの混合として報告されている場合もあるでしょう。対照実験のデータが「完璧すぎる」こともあります。そのような場合、捏造行為があったかどうかを判断するために調査が行われます[3]。デジタル画像の補正は許容されます。しかし、偏ったデータの作成や意味のある信号の損失を防ぐため、元のデータと作成した画像の明確な関係を維持しなければなりません。図が大幅に操作されている場合は、そのような補正の性質について図の説明文または「Materials & Methods（材料と方法）」のセクションに明記する必要があります。

意図しないミスが不正行為と受け取られる場合はあるのでしょうか？
米国研究公正局によれば、純粋な間違いや意見の相違は研究上の不正行為に含まれません[1]。しかし、研究が適切に行われていないという疑問が生じることは避けたほうが賢明です。研究者および著者は、責任ある研究行為にふさわしい適切なデータ管理（データの収集、保存、分析、報告）とは何かを理解する必要があります[4]。

捏造を防ぐため、ほとんどの出版社は、画像の操作と報告されているデータへのアクセスについて厳しい方針を設けています。論文を投稿する前にそれらを読んでおきましょう。

一般的なガイドラインのいくつか（分野や出版社によって異なる場合があります）を以下に紹介します[5]。

画像の操作

- 画像は鮮明さを改善する場合のみ操作しても良い。
- 画像内の具体的な特徴を強調あるいは不鮮明にしたり、移動、削除、付加してはならない。
- 明るさ、コントラスト、色バランスなどの調節は、原本に提示される情報を不明瞭にしたり、消去したりしない限り許容される。

データのアクセスと保存

- 著者は、論文の査読に際して生のデータの提供を求められることがある。したがって各論文に使用したすべてのデータは、論文発表後の妥当な期間にわたって保管する必要がある。また、データの管理人を指定しなければならない。
- 治験など、人間に対して行う研究については、データの保管期間について専用のガイドラインがある。

捏造に関する指針と防止方法*

行為	内容	非倫理的	取るべき行動
データの操作	データを意図的に修正、変更、省略すること。	はい。 データ管理とデジタル画像の倫理的な取り扱いに関する総合的なガイドラインは、米国研究公正局のウェブサイト(http://ori.hhs.gov/images/ddblock/data.pdf)を参照してください。	■データの改ざんや変更をしない。 ■データの綿密な記録を取る。 ■論文が出版された後も、編集者に求められる場合があるため、生データをアクセス可能にしておく。 ■論文を投稿する前にデータに関する出版社の方針を理解する。
データ画像の操作	研究の材料、プロセス、表、装置などが含まれることもある。	はい。 元データが提示されない、または不正に提示された場合には原稿がリジェクトされる場合があります。	■画像を修正して鮮明にしたい場合は、論文を投稿する前に何が許容されるかを知っておく。 ■画像の操作が許容可能な場合でも、論文を投稿する前に出版社に報告しておく[2]。 ■論文に使用するデータ画像を元の画像と比較し、何も変更されていないことを確認する[2]。

*疑問がある場合は、常に教授、アドバイザー、または正しい行為を指導する権限を持つ人物に相談してください。

参考文献

1. 米国研究公正局、米国保健福祉省. 研究における不正行為の定義. ウェブサイト：http://ori.hhs.gov/definition-misconduct. アクセス日：2012年6月12日
2. Scott-Lichter D and the Editorial Policy Committee, Council of Science Editors. CSE's White Paper on Promoting Integrity in Scientific Journal Publications, 2012 Update. 3rd Revised Edition. Wheat Ridge, CO: 2012, ダウンロード: http://www.councilscienceeditors.org/files/public/entire_whitepaper.pdf アクセス日：2012年6月11日
3. 米国研究公正局、米国保健福祉省. 研究における不正行為の定義. ウェブサイト：http://ori.hhs.gov/definition-misconduct アクセス日：2012年6月12日
4. 米国研究公正局、米国保健福祉省. 科学研究における責任あるデータ管理のガイドライン. ダウンロード：http://ori.hhs.gov/images/ddblock/data.pdf。アクセス日：2012年6月12日
5. Rossner M, Yamada K. What's In a Picture: The Temptation of Image Manipulation. Journal Cell Biology 2004;166:11-15

サラミ法（論文の分割）

1本の研究論文を複数の論文に「切り分ける」ことを、「サラミ出版」または「サラミ法」と呼びます[1]。

まったく同じデータを複数の出版論文で報告する二重出版と異なり、サラミ法では大規模な研究を複数の出版論文に分割します。分割した各部分は研究の「スライス」と呼ばれます[2]。

一般には、各「スライス」の仮説、母集団、方法が同じである限り、許容されない行為です。2つ以上の「スライス」は決して出版してはなりません[3]。

米国研究公正局によれば、その理由は、サラミ法により、何も知らない読者が各スライス（ジャーナル論文）に発表されているデータが異なる検体から得られたものと考え、文献を曲解する恐れがあるためです[2]。これは「科学的データベース」を歪めるだけでなく、反復によって読者の時間、あるいは各論文を別々に処理する編集者や査読者の時間も無駄にします。さらに、著者の被引用数も不正に増大させます。

大量の治験や疫学的調査によるデータを同時に出版できない、あるいはそのようなデータが無関連の複数の評価項目を使用し、異なる疑問に対応している場合もあります。そのような場合は、研究の重要な成果を別々に記述することが正当と認められます[1,4,5]。ただし、各論文は仮説を明確に定義し、大きな研究の一部として発表される必要があります[3]。

ほとんどのジャーナルは、投稿された原稿が分割されたデータの一部だとわかっている、あるいは疑われる場合は、その情報を公開し、当該論文の一部である可能性のある他の論文（発表済み、未発表を問わず）を送付するよう著者に求めています[2,5]。

サラミ法に関する指針と防止方法*

行為	内容	非倫理的?	取るべき行動
1つの研究のデータを分割し、複数の出版原稿を作成すること。	複数の論文に研究の小さな「スライス」を発表することは、「サラミ法」または「サラミ出版」と呼ばれます。	はい。 サラミ法は、各「スライス」に提示されているデータが異なる検体から得られたものであると読者に思わせ、文献の曲解を招く恐れがあります[2]。	■1つの研究のデータを複数の論文に不適切に分割しない。 ■論文を投稿するときは、透明性を重視する。投稿する原稿に関連性の深い原稿があれば、コピーを送付する。 ■これには、すでに出版された論文、最近投稿した論文、アクセプトされた論文も含まれる[5]。

*疑問がある場合は、常に教授、アドバイザー、または正しい行為を指導する権限を持つ人物に相談してください。

参考文献
1. Abraham P (2000), Duplicate and salami publications. Journal of Postgraduate Medicine, 46: 67
2. 米国研究公正局. サラミ化（データの分割）について. ウェブサイト：http://ori.hhs.gov/plagiarism-16. アクセス日：2012年9月21日
3. 出版倫理委員会（COPE）（2005年）, 事例：サラミ出版.ウェブサイト：http://www.publicationethics.org/case/salami-publication. アクセス日：2012年8月26日
4. Angell M, Relman AS. Redundant publication. N Engl J Med 1989, 320:1212-1214
5. Kassirer JP, Angell M. Redundant publication: a reminder. N Engl J Med 1995, 333:449-450

同時投稿、二重／複数出版

著者には、自身の論文がオリジナルで未発表の研究であることを確認する義務があります。二重出版を意図した投稿、再投稿は出版倫理違反と見なされます。

- 同時投稿とは、1つの論文を同時に複数のジャーナルに投稿することを意味します。これにより複数のジャーナルが同じ論文を出版することになる可能性があります。
- 二重／複数出版とは、基本的に同じ仮説、データ、論点、結論を持ち、完全な相互参照になっていない2つ以上の論文を出版することです[1]。これには、言葉どおりの複製、部分的ではあるが大幅な複製、言い換えによる複製など、さまざまな程度があります[2]。

原著論文の二重出版が非倫理的とされる主な理由の1つは、「1つの研究結果に対する意図しないダブルカウントや不適切な重み付けにより、公表されている証拠をゆがめる」可能性があることです[3]。

2つのジャーナルの出版社が事前に合意の上で「重複する論文」を使用する場合もあります[3]。これには以下が含まれます。
- 共同論説（2つのジャーナルに跨る剽窃事件についてなど）
- （臨床）ガイドライン、立場表明
- 論文の翻訳：片方の出版社から事前に許可が与えられ、投稿時に原典の完全かつ明瞭な開示がある場合[2]

原則として、出版を前提に提出される論文はオリジナルであり、他のジャーナルに投稿されたことがないものでなければなりません。著者は、関連論文（別の言語でも）、同様の出版待ち論文、翻訳がある場合は、投稿時に詳細を開示する必要があります。

二重出版の許容範囲は分野によっても異なりますが、すべての出版社は投稿規定を設けています。違反しないように、それらを十分に理解しておくことをお勧めします。

二重投稿／出版に関する指針と防止方法*

行為	内容	非倫理的?	取るべき行動
同時投稿	1つの論文を2つ以上のジャーナルに同時に投稿すること。	はい。 原稿が別のジャーナルで査読されている間の投稿は許容されません。	■1つの論文を複数のジャーナルに投稿しない。 ■投稿した論文が査読中で状況がわからない場合でも、出版社からの返事を待ち、その出版社が出版しない場合に限って別のジャーナルに投稿する。
二重出版	著者が過去に別のジャーナルに発表した自身の論文またはその一部を、過去の投稿を開示することなく再び投稿すること。	はい。	■過去に出版した論文を別のジャーナルに投稿しない。 ■同様の研究内容を記述した論文を複数のジャーナルに投稿しない。 ■二重出版と見なされる可能性のある過去の投稿（会議でのプレゼンテーション、レジストリへの結果投稿を含む）があれば、完全に開示する[3]。 ■これには、会議の議事録中に発表した過去の抄録の開示も含まれる[1]。
言い換え、または「テキストの再利用」による重複	著者が自身の研究について、オリジナルの出版論文に言及することなく、別の角度や側面から2つ以上の論文に書くこと。	はい。 同じ研究から複数の出版論文を作成することは不正と見なされます。 剽窃／テキストの再利用に関するファクトシートを参照してください。	■自分の言葉を再利用する場合でも、過去の出版論文から直接引用した箇所はすべて引用符で囲む。 ■適切に出典を明記する。
別の言語で出版された論文の翻訳	原著論文に言及することなく、別の言語のジャーナルに論文を投稿すること。	はい。 翻訳論文は、他の言語で出版した前の出版社、および論文に権利を有するすべての関係者から必要な承諾を得られた場合のみ許容されます。	■別の国または別の言語で出版されているジャーナルに論文を投稿したい場合は、それが可能かどうかを出版社に尋ねる。 ■投稿の際、別の言語での関連論文や既存の翻訳について詳細を開示する。

*疑問がある場合は、常に教授、アドバイザー、または正しい行為を指導する権限を持つ人物に相談してください。

参考文献

1. 出版倫理委員会による適正な出版手続きに関するガイドライン（Committee on Publication Ethics Guidelines on Good Publication Practice）. 出版倫理委員会（COPE）. 1999年, アクセス日：2012年6月15日
2. エルゼビア. 出版倫理リソース・キット（Publishing Ethics Resource Kit: PERK）. ウェブサイト：http://www.elsevier.com/wps/find/editorshome.editors/Introduction アクセス日：2012年6月15日
3. 国際医学雑誌編集者委員会（ICMJE）. 生物医学系ジャーナルに提出する原稿に対する一律の要件：生物医学系ジャーナルにおける論文発表に関する出版および編集上の問題：重複出版 . ウェブサイト：http://www.icmje.org/publishing_4overlap.html アクセス日:2012年6月8日